

第八回 6月13日

(1) バングラデシュのビデオ

前回のビデオを、もう一度利用する。

(ア) 各自が、用紙1に記入したことを、発表する。
他の人の着眼点や、考え方を聞くことに、大きな意味がある。

(イ) 今度は、用紙2を開いて、ひとつのテーマについて順にメモを読み、その部分をビデオでも見直す。ビデオをまわす時には、教師が解説。

・・・ビデオを見終わったところで、来週はカレーを手で食べてみるか、尋ねる。イエスでまともだったらやるし、ノーであればやらない。

(2) 外国からの物

ビデオの中のことは、遠い世界のように感じられがちだが、イメージ的に少しでも近づけていきたい。外国と自分の日常生活が、それほど縁遠いものではないことに気がつかせる。

(ア) 自分の持ち物から、外国で作られたものを探す。made in ... などと書かれているものがいくつか出てくるだろう。
見つけられなかった人は、部屋の中から、外国製の品物を探し出す。

(イ) 国を、地図で探す。

(ウ) その国から、連想することを、書き出してみる。
何について、書くことができるか？ それは、前に出てきたリストを元にできる。

「いつ」：季節、朝・昼・夜、

「どこ」：国、地域、気候、山・海、都会・田舎、

「何」：衣、食、住

いままでの学習で、ステレオタイプ・偏見というものを考えてきたので、自分で、それらにとらわれてしまわないように気をつけて、考えてみようという言い方をする。

土地の産物は、環境などからの必然性と結びついていることをイメージさせたい。偉い、偉くない、というような順番をつけないで考えられるようにしたい。

(配布プリント)

() 月 () 日

<今日のふりかえり>

1. 今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

2. 自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 良かったところ、
悪かったところは、どういうところでしたか。 自己分析・評価しましょう。

自己採点：___点（10点満点で）

理由：

3. 今回の授業の、テーマ選び・展開のしかたなどで、問題点があるとすれば、どう
いうところでしょうか。 分析・評価しましょう。

授業採点：___点（10点満点で）

理由：

<生徒のコメント>

6月13日

1. 今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

- ・手でカレーを食べるのを体験してみたいと思う。
- ・前回の授業に引き続いて日本の文化とバングラデシュの文化の違いを体験できて良かったと思います。カレーを作ってみるのもいいと思います。
- ・国によって物の価値が違うことをすごく感じた。ノートとか教材でも、日本ではいっぱいあるのにバングラデシュではとても大切なものという事にちょっとびっくりした。他人の意見を聞くと、気づかなかった事とかがあって、ビデオ観て納得した。カレー作りは、手で食べるということはあまりやらない事なんで、大変そうだけど、おもしろそう。ちょっとやってみたいと思いました。
- ・みんなは色々考えてるんだなーと思った。人によって見方が違う！！
- ・バングラデシュの文化がすこし分かっておもしろかった。
- ・熱帯のフルーツが食べてみたいと思った。勉強ができない（充分に）のはかわいそうだと思った。
- ・みんなちがうことを思ってたんだなあと思った。カレーは作らなくていい。
- ・もう一度バングラデシュのビデオを観て、この前の時よりもいろいろ考えることができた。
- ・カレーを手で食べるの、一度はやってみたいと思った。
- ・考える部分が違うと思った。何回か見るとよく分かる。そっちの授業は楽しそうだからやってみたい。
- ・みんなそれぞれの見方や意見があってよかった。なんで包丁が上向きなのか、あぶないじゃん。貧しいけどいいところだなと改めてわかった。カレー食いたい、かな？

2. 自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 良かったところ、悪かったところは、どういうところでしたか。 自己分析・評価しましょう。

自己採点：___点（10点満点で）

理由：

- ・（10）自分の意見がしっかり言えたのが良かったし、回りの意見も聞けたので色々な考えができた。
- ・（8）前回、メガネを忘れてしまって、画面がよく見えなくて、ビデオがよく見えなかった所もありましたが、まあまあ、発言できたと思います。
- ・（6）今日は眠かった。
- ・（8）2時間目からだったけど、それなりに真面目にやった。
- ・（8）ちゃんと前回の授業でかけていたからよかった。
- ・ちゃんとできた。書いてあることをゆっただけだった。
- ・（8）自分の考えが言えたから。
- ・（5）途中参加だから。
- ・（10）今日も自分の意見をはっきり言えたし、がんばった。でももうちょっと声が

出れば・・・

3. 今回の授業の、テーマ選び・展開のしかたなどで、問題点があるとすれば、どういふところでしょうか。 分析・評価しましょう。

授業採点： ____点（10点満点で）

理由：

- ・（7）自分の意見を言わない人がいる・・・
- ・（8）みんなで意見を出し合って、楽しい授業ができたと思います。
- ・（6）
- ・（5）おもしろ味が足りない。
- ・（8）問題点特になし。
- ・（10）みんなが様々な事について意見を言えたから。
- ・（9）特に悪い点はない。

授業者のふりかえり：

この次の回で、カレー体験をすることになる。ただ、この種の活動は、強制するわけにはいかない。こちらが良いと思っても、やりたくない生徒が多ければやめるつもりでいた。やりたくないとした生徒が2人だけだったのでやることにしたが、無理矢理そのふたりにも食べさせようとは思わない。まわりにつられて自然に口に入れれば、それが望ましいが、こちらの都合を押しつけないことにしている。だいたい、カレーに、つまり液状のところに手を入れて食べるという行為は、日本の食生活にはないので、何の下ごしらえもないところで持ち出せば全員に拒否されても当然といえるようなことである。それが、たった2人までになっているのだから、生徒に感謝すべきところだろう。

(配布プリント)

・・・ホームルームで、配ってもらったプリント・・・

三年生選択 「国際理解」 選択者へ

先週、「カレーを食べる？」という質問をしました。反対が3人以上だったら、やめるつもりでした。みんなの書いてきた反応を読んだところ、2人でした。これは微妙な数で、どうしようか今日まで迷っていたのですけれど、やることにしました。です
ので、明日は、家庭科・調理室に集合してください。

もちろん、食べ物の好き嫌いというものがありますから、必ず食べろと強制はしませ
んので、安心してください。

手をちゃんと洗わないといけませんから、ハンカチは必需品です。忘れないで。

四月の初め、第一回目の授業で、国際理解の要点は人としての姿勢にある、ということ
を話しました。ステレオタイプや偏見を乗り越えた考え方や行動ができることが、
目標です。食べ方という基本的なことにも、ステレオタイプ・偏見は存在します。

「棒きれで食べるなんて、子供のいたずらみたいで、下品」というのは、どこが変だ
と思うのでしょうか。(もちろん、この“棒きれ”とは、箸のことです) このような
言い方をする人は、“棒きれ”で食べる習慣の人々を尊敬する気持ちは持てないでし
ょう。つまり、偏見によって、相手を低く見てしまうため、他人を大切にできないと
いうことです。

実際に手で食べてみると、様々な合理性が発見できます。そして、それは体験を通し
てしかわからないものです。言葉だけでは、肝心なところが理解できないものです。
明日は、理屈は脇において、経験的・感覚的に、理解してほしいと思います。そして、
ステレオタイプ・偏見というものにとらわれないような、見方の広い人になってもら
いたいと願っています。

* 朝の一、二限なので、それほどたくさんは作りません。朝食はふつうに食べてき
てください。

* 途中までは準備しておきますが、自分たちで料理は完成させます。

第九回 6月20日

先週までで、「ステレオタイプ」について、頭の中で考えることをしてきた。今回は、具体的な行動によって、みずからそれを乗り越えてみる経験をするのが、目標。

そのために、カレーを手で食べてみる。

多くの人が、手で食べるのは野蛮だ、不潔だ、などという偏見を抱いている。おにぎりや煎餅は手で持っているのにも関わらず。また、昨日洗った箸と、たった今洗ったばかりの手では、どちらがきれいか、客観的に考えれば事実は明らかである。しかしながら、液状の柔らかいところへ指を入れるのは、日本では馴染みのないことなので、ある程度の恐れを抱くのも、不思議ではない。そういう、自分には馴染みのないことを、場面によっては進んで行動する体験をさせてやりたいものである。どんな人に会っても、どこへ行っても、何の客観性もなく自国のやり方を絶対視しているのは、人間として恥ずかしいことであるし、周囲を不愉快にするものでもある。

ただ、あまり理屈っぽくなく、今日は体験の日、と割り切ってもいいだろう。

今年は、午前中一、二時間目なので、あまり昨年のように盛り上がりたかもしれない。時間割の五、六時間目になるように、昨年の秋に教務へお願いをしておくべきだった。

カレーの作り方

- ・タマネギは時間がかかるので、これは、今回は事前にいためておく。
- ・ニンニク。ショウガ。
- ・コリアンダー、ターメリック、パプリカ、カイエンヌペパーを5 : 4 : 3 : 1で。
- ・鶏肉。
- ・カルダモンと、テジュパタ。

米の炊き方＜湯取り＞

- ・水は、米の4倍を、注ぐ。
- ・グラグラと沸かす。ふたはしない。粘りが浮いてきたぶんを、すくって捨てる。
- ・米の芯がなくなってきたら、湯を捨ててしまう。
- ・蒸らさないで、蒸気をとばす。

あとは、生徒たちの様子を見ながら、「ある程度、成り行きまかせ」で進めていきたい。あえて、そう考えるのは、これまでの五回は、とてもよく準備しておいて、こうきたらこうする、こうなったらこの手を出す、ということが事前にシミュレーションされていた。しかし、常にそうでなくてはいけない、とも思えない。今回は、理屈を必要としない生の体験があるのだから、話を事前に設定しないで、自然な流れの中で自然な対話が進むことを、ねらってみる。言葉よりも、生徒たちは自分自身の指先から多くを学ぶだろうし、そこから出てくるものを教師が受け取る側になる授業のありかた（ふだんとは反対の立場）を、試みることになるだろう。

(1) 材料を知る

材料を（米、小玉葱、スパイス類）を並べる。米は生のものを二種類（ジャポニカ米とインディカ米）まず触らせて、違いを感じてもらう。スパイスは匂いをかぐ。粉末でないもの、今回はコリアンダーシード、カルダモン、そしてテジュパタ（月桂樹とそっくりな葉）は、じかに触って確かめる。

（２）米を炊く

炊く米は二種類、用意した。一方は、ジャポニカ米の代表でコシヒカリ、もう一方は、タイ産のインディカ米。前者は、日本で普通にやるとおりに炊飯器で、後者は南アジアで一般的な、大きな鍋で湯取り（大量の水でゆでていき、頃合いを見計らって湯を捨てる）で炊いた。この、湯取りすることには、カレー本体と同じくらいの意味がある、重要なポイント。

玉葱が炒められたところで、他の材料と水を入れ、後は煮ていく。そちらを待つ間に、湯取りにする意味を説明する。

- ・日本のお米は、炊いたとき見た目に艶があって、光るのがいい、とされている。ところが、それは海外でも同じだと思ってはいけない。
- ・湯取りにすると、お米の表面に、ひびがたくさんはいる。そうすると、見たところ、艶は全然ない。そして、わざとそうするのは、カレーをかけたときに、そのひびからとてもよく吸い込んでくれるようにという意図があつてのことである。
- ・つまり、ジャポニカ米を日本風に炊くと、カレーを吸い込んでくれない。だから、混ぜても一体感がなくて、ものたりない。インディカ米を湯取りすると、とてもよく吸い込んで、おいしくなる。
- ・これは、地元の食材を、その特徴が生きるように調理している、よい例である。（何が何でも日本のお米が一番だ、などという言い方が、底の浅いステレオタイプ、またはナショナリズムによるものに過ぎなかったことに気づくポイントともなる。）
- ・よく混ぜるほうが、おいしい。そして、じゅうぶんに混ぜるには、箸よりも、指でやったほうがうまくいく。つまり、食材や調理法と不可分なものとして食べ方があり、カレーに適した方法として、指が使われている。

こういう話をしながら、お皿などを並べていく。冷蔵庫から、ヨーグルトを冷水で少し伸ばして砂糖を溶かしたもの（いわゆる、"ラッシー"である）も出す。これも、相性という考察に役立つ飲み物。

（３）米の性質の確認

お米が炊けたところで、小さなガラスの器をふたつ出し、片方にジャポニカ米、もう片方にインディカ米をよそう。器の底から、中が透けて見える状態。そこに、お玉で一杯ずつ、カレーを注ぎかける。

ジャポニカ米は、すぐに器の底まで、カレーが通り抜けてくる。

インディカ米は、器の底が、カレー色にならない。白い米が見えている。つまり、途中で米が吸い込んでいるのだということが、目で見てはっきりとわかる。

(4) 食べる

指で食べるやりかたについて、軽く説明。
(簡単にいうと・・・)

人差し指・中指を下にして、スプーンのようにすくい取る。それを、親指の爪の方で押して口の中に入れる。

「個人的経験では、身体を机にまっすぐ向けていると、なぜか食べにくい。左肘をテーブルについて（日本では「お行儀悪い！」といわれるが）、身体を少し斜めにすると、なぜか上手に口元へ運ぶことができる。」という話をした。



調理室で、カレーを手で食べる授業

あとは、しばらく、雑談。あまり授業っぽくしゃべると、生徒にはうるさいだけだろうし、あれこれ感じたり考えたりしているのを、じゃましてしまう。

ヨーグルトの話。カレーは、もちろん、辛いのが普通である。そして、辛さを鎮めることができるのはなにかというと、「甘いもの」「乳製品」である。つまり、カレーの合間に飲むのに最もいいのは、甘いヨーグルトなのである。ダッカの町中では、素焼きの壺に入れた、屋台のヨーグルト売りが出ている。

しばらく食べたところで、魚の焼いたものを出す。これは、指で食べる場合の問題点を感じる目的。できれば、小骨がたくさんある小魚を用意する。それを手で触ると、骨が指先に時々刺さったりするし、案外、身ははずしにくい。焼き魚などには、箸の方が高機能なのがある、というものであった。

穀類や豆にスープを混ぜて食べるには指が便利で、それらが主になる地域では自然と指文化になる。魚を食べやすいことが重要になる日本のような地域では、おのずと箸が使われる。そう考えると、どちらが偉いとか野蛮だとかいう見方が、客観性や論理性のない、視野の狭いものに過ぎない、ということもわかってくる。

今年は、時間をうまく使って、後かたづけまで全員でやれるようにしたい。

(配布プリント)

() 月 () 日

<今日のふりかえり>

1. 今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きまじょう。

2. 自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 良かったところ、
悪かったところは、どういうところでしたか。 自己分析・評価しましょう。

自己採点：____点（10点満点で）

理由：

3. 今回の授業の、テーマ選び・展開のしかたなどで、問題点があるとすれば、どう
いうところでしょうか。 分析・評価しましょう。

授業採点：____点（10点満点で）

理由：

<生徒のコメント>

6月20日

1. 今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

・カレーの味がうすかったこと。日本のカレーと違い、意外と油っこくなくったこと。手で食べるのはやっぱり日本人にはあわない気がする。タイ米よりコシヒカリの方がかなりうまかった。

・食べ方にもいろいろあるとおもった。味がうすかった。

・カレーを手で食べるのは、難しいと思っていたけど、やってみると思っていたより食べられた。こういうことをするのは初めてだったけど、面白かった。

・スパイスから作ったからびっくりした。水っぽくて、カレーじゃなくて黄色い水みたいだった。

・普通に片手で食べればいいのかと思ったけど、食べる時の体の向きもあった。たしかに、右左、どちらかのひじをついた方が食べやすかった。ヨーグルトの飲み物がカレーにあるというのははじめてであった。でもこの組み合わせで初めて食べると、腹をこわしそうな感じがした。

・カレーの味がやたらと薄かったし、食べた後腹が痛くなったので困った。

・手でカレーを食べた。自分でやってみれば“汚い”って意識はなかった。

・今日、カレーに入れた調味料(?)がいっぱいあったけど、全然見たことのないものばかりでした。木の実に多くて、辛そうなものばかりで、いつも作る時は市販のルーを買ってそれを入れて出来上がりだったんだけど、それは日本のお米との相性を考えて作られたものだと知った。地域で取れるものによって、はしや手ナドわかれているということを知った。魚は手じゃすぐくたべにくかった。手で食べるのは意外と大変。

・みんなでカレーを作って食べた！ それも手づかみで。日常ではなかなか体験できないようなことができて、とても楽しかったです。カレーもとてもおいしく、すごくいい経験が出来たと思っています。

・カレーを色々なスパイスから作ったのは初めてだったのでとっても面白かったです。手で食べるのもやっぱり難しくてポロポロしてたのですが、だんだんなれて上手く食べれるようになり楽しかったです。

2. 自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 良かったところ、悪かったところは、どういうところでしたか。 自己分析・評価しましょう。

自己採点：___点（10点満点で）

理由：

・（10）今日も積極的にやったし、いい体験ができてよかったと思う。トリ肉がうまかった。

・（10）食べたし、片づけもしたから。

・（8）食事の準備、片付けができた。

・（10）かたづけとかちゃんとやった。

- ・(10) ちゃんとできたと思う。
- ・(9) 自分なりに真面目にやったと思ったから。
- ・(10) 作ったし食べた。
- ・(9) 飲み物を用意したり、皿洗いをしたりして、とても積極的に参加しました。
- ・(10) 進んでカレー作りに参加していきました。

3. 今回の授業の、テーマ選び・展開のしかたなどで、問題点があるとすれば、どういふところでしょうか。 分析・評価しましょう。

授業採点： ____点 (10点満点で)

理由：

- ・(9) いい体験ができたし、いろんな香辛料も知ることができた。ただカレーの味がうすい。
- ・(7) 味が・・・
- ・(10) 良い経験ができた。
- ・あんまりおいしくなかった。
- ・(8) ご飯を食べるとき(カレー)ちゃんと手を洗った方がいいなと思った。
- ・(5) カレーを作ること自体はおもしろいが、味が薄い。
- ・(8) カレーはおいしかった。のみものはちょっとキツかった。減点2。
- ・(10) 日常ではなかなか体験できないことができて、とても楽しかったです。
- ・(9) カレーが初めて食べた味なので不思議な感じがしました。飲み物が少し微妙でした。

授業者のふりかえり：

今回の最大の問題は、カレーがあまり上手にできなかったところにある。去年は、5・6時間目だったので、生徒は昼休みにはいったら調理室に集合し、みんなで玉葱の皮むきから始めて作って食べた。つまり、時間も人手もあったので、玉葱をたくさん使った。それが、今年度は1・2時間目なので、自分ひとりで準備したため、炒め玉葱の量が足りなかった。とても残念である。ほんとうはもっとおいしいんだよ～と、口でどれだけ言ってもダメなものはダメで、これは反省しなくてはいけない。今回に限らず、国際理解の授業は、失敗すると、困った誤解を植え付ける危険がある。

第十回 6月27日

(1)「心の健康」について

この回が一学期最後になるので、まとめを意識して、焦点を当ててきた「ステレオタイプと偏見」について振り返る。

現実の社会は、多様なグループが折り重なっている。男と女、学校、地域、習慣、国籍、その他のいろいろなグループがある。主な問題は、ふたつ。しばしば、グループ間に上下をつけることと、ひとりひとりの人間を無視して「あのグループはみんな・・・だ」という乱暴な決めつけがおこなわれること。このふたつの問題から抜け出せることが、人々と対等につきあう、そしてつきあってもらえるために、欠かせないものである。

心理学的に、強い偏見を持つ人には、次のような傾向があることがわかっている。

- ・愛情よりも、服従を強いられてきた。
- ・子どもの頃、欲求不満をコントロールする力を身につけなかった。
- ・自分の行動（特に、過ちを犯したとき）に、責任を取らない。
- ・身代わりを作って、他人のせいにする。

これらの結果、他人を攻撃する排他性、差別を持つようになる。これは、健康な心とは言えない。誰かを悪く言うことが気持ちよく感じる状態は、心の病気と言うべきかもしれない。（悪口を言うときに、目を輝かせて、すごくうれしそうになる人がいる）この、他人を悪く言う場面は、身近なことから、国際紛争まで、至るところで見られる。しかしながら、落ち着いて安定した状況を壊すゆがんだ心理である。健康な社会は、健康な心から、ということができるだろう。

(2)「もし、私が・・・だったら」

一学期の最後には、バングラデシュのビデオを見て、その習慣に基づいた食事の実習をしてきた。それを元にして、自分がもしバングラデシュ人の誰かだったとしたら、という仮定で想像してみる。

（誰か、の例：小学生、赤ちゃんのいる母親、リキシャの運転手、稲作農民）

3～4人がひとつの設定で考えるので、その後に各自が考えたことを話していくと、同じ設定でも違うことが思い浮かび、価値観が異なることを感じ取れる。

もし、私がバングラデシュの（ ）だったら、

- 1) どういう趣味があるでしょうか？
- 2) 何が、大切だと思いますか？
- 3) 世の中で最もいけないことは何だと考えるでしょうか？
- 4) 将来、どうなりたい、どうしたいという希望をもっているでしょうか？

(3) 自分の理想の環境・暮らしを想像してみよう

自分自身にとって、落ち着いて楽しく暮らせるための条件を、考えてみる。

(自然環境、職業、衣類、食事、住居、趣味、一日の過ごし方、休日の過ごし方)

さまざまに異なる価値観を、聞いて受け入れる感覚を持ってほしい。

(4)・・・時間が早く進んだなら、「ステレオタイプを打破する」

(実際にはおこわなかった)

以下の文について、自分だったらどう反応するか、せりふを考えて書く。(文章は、UNESCOの作成した冊子「開発のための教育」から)

文1：

学校の先生が繰らすに4人1組のグループで作業をし、その報告を書きなさいと言いました。家族で途上国から来たテオが、あなたのグループにいます。グループが図書館に行こうとすると、マルクという学生が来て耳元でささやきました。「テオが僕たちのグループにいるなんていやだな。あいつの国の国民はみんななまけものなんだぜ。他の国がお金や食べ物や薬をくれるのを座って待っているんだ。テレビでやってたよ。自分たちじゃ何もしないんだぜ。だから、ぼくたちであいつの分まで作業しなきゃならないよ、きっと。」

文2：

あなたのクラスの先生はここから車で二時間のところにある博物館へ、一日見学を計画しています。先生は、父母の誰かが一緒に行って手伝ってくれるかどうか聞いてくださいと生徒に言います。あなたは、「たぶん、おばあちゃんが行けると思うので、聞いてみる。」と言います。でも、先生はこう言います。「ありがとう。でも、この見学はけっこう長い時間かかるし、長距離を歩くことになるから、おばあちゃまはすぐに疲れてしまわれるかもしれないね。お母さんかお父さんに来てもらえるといいね。」

文3：

途上国から来た家族が何世帯か最近になってあなたの町に移り住んできました。廊下で、友人のひとりが寄ってきて言います。「ああいう貧乏人が近くに住んでいるなんて気にさわるわ。父が言うには、あの人たちは仕事を探しにこの国に来たんだって。それで、私たちみたいに前からここで暮らしていた人たちの仕事を奪っていくんだって。みんな自分の国に戻ってほしいわ。」

文4：

今日はソニヤがあなたのクラスに入った最初の日です。ソニヤは車いすを使って動き回ります。休み時間の直前、クラスメートのひとりがあなたに言います。「外に出かけるときは、ソニヤにコートをかけてあげなきゃね。きっと自分じゃ着られないと思うから。」

文5：

イエナはあなたのクラスにいる外国人の女の子です。ある日、食堂でお昼を食べていると、友達のひとりが言います。「あの気味の悪いイエナのお弁当、見て！ ものすごく臭わない？ あの子の国の人たちって、よくあんなもの食べられるわね。」

文6：

あなたは男の子で、もうひとりの男子と、リマという女子と一緒に化学の実験をしなければなりません。それで、仕事をどのように分担するか話しあっています。するともうひとりの男子が言います。「きみが材料の測定をして、ぼくがガスバーナーに火をつけて、そしてリマが記録をとるっていうのはどうかな。女子の方が字がきれいだからさ。」リマは黙ったままです。

(配布プリント)

() 月 () 日 ワークシート

(1) もし、私がバングラデシュの (

) だったら、

1. どういう趣味があるでしょうか？

2. 何が、大切だと思いますか？

3. 世の中で最もいけないことは何だと考えるでしょうか？

4. 将来、どうになりたい、どうしたいという希望をもっているでしょうか？

(2)

自然環境：

職業：

衣類：

食事：

住居：

趣味：

一日の過ごし方：

休日の過ごし方：

一学期末アンケート

三年生 選択「国際理解」 一学期をふりかえって
()組 ()番 氏名()

用紙 1
)

一学期は、以下のような展開で、学んできました。

一、二回目：「自分って何？」ということについて、考えてみる

三回目：まわりとの関わりの中で、どう行動するかを考える

四～六回目：ステレオタイプ、偏見について

七～十回目：ものの見方、考え方

ふり返ってみて、現時点で思うところを書いてください。

<授業について>

<自分自身について>

来学期以降について現時点で思うところを書いてください。

<授業について>

<自分自身について>

自己評価

() 組 () 番 氏名 ()

自分で、以下の項目について評価をしましょう。

1. 一学期をふり返って、授業への集中力はありましたか。

自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか。

自己分析・評価しましょう。

自己採点： ____ 点（10点満点で）

・判断の根拠は、何ですか？ なるべく具体的に書きましょう。

2. 一学期をふり返って、授業で十分に努力はできたでしょうか。

良かったところ、悪かったところは、どういうところでしたか。

自己分析・評価しましょう。

自己採点： ____ 点（10点満点で）

・判断の根拠は、何ですか？ なるべく具体的に書きましょう。

3. 総合的に、自分で自分に成績をつけるとしたら、何点ですか？

自己採点： ____ 点（10点満点で）

・判断の根拠は、何ですか？ なるべく具体的に書きましょう。

その他、何かコメントがあれば、この下へ。

<生徒のコメント>

三年生 選択「国際理解」 一学期をふりかえって

用紙 1

() 組 () 番 氏名 ()

ふり返ってみて、現時点で思うところを書いてください。

<授業について>

- ・今までは、この様な授業をしたことがあまり無かったけれど、やってみて良かったと思う。
- ・考えたりするのが大変だった。
- ・いろいろな考えがあるからこういう国際理解という考え方も逆に型にあてはめてしまうこともあると思った。
- ・1人1人が必ず意見する。ある1つのことに関して想像したり、偏見がどこか自分の中にあったことが気づかされたり。
- ・あまり国際的な事は学べた気がしない。
- ・いつも授業の始まった辺りでは何がやりたいのかサッパリだったけど、終わり頃にはだんだんと消化できている不思議な授業だった。
- ・最初は普通の授業と違って、何という答えを求めているのかわかんなかったけど、考えて、皆の答えを聞いて、先生の話聞いて……。そしたら、今まで全然考えてなかった事で、自然に思っていた事が違うということがよくわかった。
- ・他の授業と比べて、とても面白くて、いいと思います。正直言って、「国際理解」を選択して、良かったと思います。仲間と協力しあったり、カレーを素手で食べたり、けど、いつもまわってるカメラがあやしかったです。
- ・今までの授業では、自分の考えや意見を発言することはなかったのですが、この国際理解というものは、自分の意見を発言したり相手の意見を聞いて、自分の考えを深めると今までにない面白さがありました。
- ・知らず知らずに自分も偏見を持っていることに気付いた。もっといろんな見方ができればいいと思う。

<自分自身について>

- ・今までとは違ったものの見方ができる様になったと思う。
- ・最初より意見とかいえるようになったと思う。
- ・想像することより自分自身の夢とかきかされると困ってる自分がいた。
- ・初めは、みんなのことよく知らないし発言しろと言われてもいきなり無理だった。でも授業をこなすうちに周りにもなれてちゃんと言える（答える）ことができるようになった。自分を少しでも広い見方で見れるように → 国際理解がわかった。
- ・自分が学びたいことと違ったので真剣に授業に取り組めなかった。
- ・一回めよりも二回めの方が、二回めよりも三回めの方が～・・・みたいにだんだんと考える幅が広がったと思う。
- ・普通の授業と違って答えのない発表があって、苦手だけど、間違いはないし、意見を言わないよりは言おうと考え方がちょっと変わった。

- ・僕はまだ自分自身について、よくわかりません。きっと一生、わからないでしょう。
- ・私はこの授業で自分の考えを発言してきたと思います。(初めは)自分の意見を言うのが、はずかしかったですが、今では早く自分の意見をみんなに聞いてもらいたいと思っています。
- ・この授業をやって、いろいろな理解をできるようになった気がする。あと僕は自分についてある程度解っていると思うので、1, 2回めの授業は難しくはなかった。

来学期以降について現時点で思うところを書いてください。

<授業について>

- ・同じ様にやっていきたい。
- ・班とか自由にしてほしい。しゃべれない人の中に自分一人とかになったらやだ。
- ・いろいろな面から見ていくようにしたい。
- ・このままでいいと思います。
- ・もっと国際的な事の知識が増やせるようにしてほしい。
- ・発展途上国よりもアメリカの“主張する社会”みたいなのを学んでみたい。日本とは全然違うから。
- ・もっと色々な外国とかの事を知りたい。
- ・さらに楽しくなればいいと思います。あと、何人かまだヤル気のない人がいるので、その人たちがヤル気になればもっと楽しくなると思います。
- ・もっと、いろいろな考える授業をやってみてもいい気がする。

<自分自身について>

- ・さらに多くの考え方ができるようにしたい。
- ・想像力とかもっとついてきたらいいと思う。
- ・日ごろの行動は周りにとっていいことなのか考えたい。
- ・自分の積極性を強めるべきかもしれない。
- ・来学期は今学期より真面目にできたらいいと思う。
- ・視野を広くして、大きくなりたいと思う。
- ・想像するという事をがんばる。
- ・よくわからないですけど、自分の知らない自分ってのをもっと見てみたいのです。
- ・もっともっと自分の意見を発言し、相手の意見を聞いて、世の中を理解していきたいです。
- ・世界の人々のことを理解できるようになればそれでいい。

自己評価

1. 一学期をふり返って、授業への集中力はありましたか。

自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか。

自己分析・評価しましょう。

自己採点：____点（10点満点で）

判断の根拠は、何ですか？ なるべく具体的に書きましょう。

- ・（10点）いつも前向きで、積極的に授業に向かっていったと思うから。いろいろと自分の意見も述べたし、一生懸命考えてたし、たぶん気を抜いたことがないでしょう、ハイ。
- ・（9）自分の考えをしっかりと持ち、発言することができました。最初は、はずかしがってしまい大きな声で発言することができなかったので -1 点です。
- ・（9）自分でも真面目にやっていたと思います。積極的に授業に参加していました。ただ、声が小さかったと思うので9点です。
- ・（5）やる気？はあるけど、考えを書いたりするのは、最初の方はとくにあまりできなかった。
- ・（8）遅刻・欠時をしなかった事。沢山考えて色々な角度から物事をとらえようとした。
- ・（5）前半は不真面目だったが、後半は真面目に授業に取り組んだから。
- ・（8）授業にあった態度でちゃんと取り組むことができたと思う。時間以内に考えなければならぬ所ができなかった。聞かれても答えられなかった。
- ・（5）途中参加という形だったので、初めはこの授業のことを理解しようとしなかったから。
- ・（3）集中は、あんまりしなかった。2時間も集中してられない。
- ・（8）自分なりに、授業の題材について、考え、意見を持つ事ができたから。

2. 一学期をふり返って、授業で十分に努力はできたでしょうか。

良かったところ、悪かったところは、どういうところでしたか。

自己分析・評価しましょう。

自己採点：____点（10点満点で）

判断の根拠は、何ですか？ なるべく具体的に書きましょう。

- ・（10）かだいについて一生懸命考え自分なりの考えを述べる事ができたから、常に指される（意見を聞かれる）気でいましたからね。
- ・（8）自分の意見をしっかりと持ち、この世の中のステレオタイプや偏見について考えてきました。 まだ少し偏見が（色々な意味で・・・）あるので -2。
- ・（8）努力はしていたのですが、まだうちとけていない所があるので8点です。
- ・（3）自分なりに、がんばった。と思うけど、まだ、ちょっと？がんばれると思う。

感想しかかけなかった。書くのが遅いかも。

- ・(7) 良：いっぱい考えた。 悪：たまに眠かった。
- ・(3) 努力するような場面があまりなかったから。
- ・(9) 初めより、物事について考え、答えられたと思う。
- ・(7) 良かったところ → いつもより多く考えたから。
悪かったところ → 思うように言葉にできないこと。
- ・(10) 想像をいっぱいした。
- ・(7) もっと沢山の意見を持てる様になると良いと思った。

3. 総合的に、自分で自分に成績をつけるとしたら、何点ですか？

自己採点：___点（10点満点で）

判断の根拠は、何ですか？ なるべく具体的に書きましょう。

- ・(10) がんばったと思うよ、自分。ただもう少し頭がやわらかければいろんな見方ができたと思うが、でも10をつけてもいいと思う自信がある。それだけ授業に熱心にとりくめたと思う。
- ・(9) 自分なりにこの授業に進んで参加することができたと思います。 書くのが遅いので -1。
- ・(9) 毎日休まず授業に出れたし、授業を楽しんできたからです。
- ・(5) もっと自信を持って意見をいえるようにする。
- ・(8) テーマに対していつも頭使って考えてきたのと、授業を休まなかった。
- ・(6) 授業を真剣にやろうという意欲がわくような内容ではなかったので、所々、手を抜いてやっていたから。
- ・(9) 授業に協力できたと思うし、自分も授業を通して考えを広げることができた。
- ・(6) ちゃんとやってた感じがするから。
- ・(10) ちょーがんばった。朝からいろいろ考えたし。早起きした。
- ・(8) 意欲を持って、授業に参加することができたと思うから。

その他、何かコメントがあれば、この下へ。

- ・あのビデオ、なんなのですか？

第十一回 7月11日

今回は、期末考査後の中途半端な授業になる。前後との連携を考えたものにはできないので、単発的なものにせざるを得ない。

テーマは、風土と文化の関係を考える授業とする。ある程度の知識がある、イギリスの風土と文化を、必要に応じて日本と比較しながら考える。

(1) 物語

以前にジェンダーの問題を考えたとき、世界のおとぎ話を題材にしたことがあった。それを思い出しながら、今度は、別の角度から考える。

設定：「外国の、人間と人間でないものが同等に出てくる古い物語を、挙げてみよう」

これは、日本には無数にある。かちかち山とか。現代物では宮崎アニメも。

外国の、有名なそのような話を挙げていくと、意外なほど特定の国の話ばかりになっていく。それが、イギリス。

マザーグースものに始まり、誰でも知っているクマのプーさん、ピーター・ラビット、不思議の国のアリスといったファンタジー。そして、怪奇文学では、ジキルとハイドだけでなく、ドラキュラ、フランケンシュタイン、透明人間なども、作者はイギリス人。

ヨーロッパのなかで、“人間でない存在”の活躍ぶりが突出している。これは、どういうことから来ているのだろうか。

(2) 環境と、世界観

イギリスと日本との類似点を探していくところから、そこで生まれる物語の特徴・傾向を見つけていく。

どちらも“雑然とした”自然環境が特徴。人と自然との境目があいまいな自然環境から、人とそれ以外の区別がはっきりしない世界観が生まれるという推測が可能になる。

子どものころからなじんできた世界観が、大人になっても大きな影響を持ち続ける。

伝承物語の典型が、神話であり、しばしば古来から伝わる宗教でもある。それらを根拠に、時には命を奪い合うことにさえなっているのが、現実の社会である。

いくつか、国際紛争から、その実例を挙げる。

伝統や文化が、いけないものではない。しかしながら、それらが争いの原因になることはくい止めなくてはならない。

自分の属するものに、価値を感じて大切にすることは、よい。

往々にしておこなわれる、それと他者とを比較して、優劣・上下をつけること、これが良くない。このことに敏感になり、自分の価値を守ったり高めたりするために他をいやしめたりする悪い意識を持たないようにすることが、世界の諸事情を、歪まない目でまっすぐ見られるようになるために、必要。

一学期は、どのような姿勢で臨むかという、「さまざまな事象の見かた」を勉強した。それを土台にして、二学期は、具体的な事柄を検証していく。

一学期を通じての、授業者のふりかえり：

一学期は、少しずつ自分の意識を広げていくような展開をしていった。

- ・自分自身について
- ・自分と、目の前の人
- ・自分と関わりのあるかもしれない人
- ・遠くの人たちまで自分と結びつけて考える

その過程で、どのように相手を見て、どういう関係を作るかという、人間的な姿勢について考えてきた。その結果が、生徒の一学期末アンケートである。

教師は、こうしたい、こうあるべきだという考えの元に授業の計画を作るものでありながら、実際に生徒に向かったらそれを押しつけないということは、矛盾があるようにも思えるところである。強制はしないけれども誘導してしまいうのであれば、たいして変わりはない。しかし、逆に、生徒がどんな方向へ行こうとかまわないというのでは、教育に目標がないということになってしまう。

自分では、この講座を「平和のための教育」と位置づけているので、無責任に拡散させない方向である。同時に、これは老子的であるが、ある程度広い範囲を視野に入れながら、自然の大きな流れを生徒が感じるようであれば、おおよそおさまるべきあたりに自然におさまっていくのではないかという、ある種の性善説的な期待に基づいている。良い意味で、なるべきようになるようだ、というのが印象である。ラブレーの「ガルガンチュワ物語」では、理想的な学校にある唯一の校則が「やりたいことを、やる」というものだそうである。生徒たちは、ほんとうにいいことを深く考えると、もしくは「深く考える」という習慣を持つことで、自然と良い人間的姿勢を備えていくものなのではないだろうか。教師がよけいな解説をしなくても。

二学期

絵本「世界がもし100人の村だったら」を使い、世界の状況について考える
(第十二回～十五回授業)

一学期は、ステレオタイプ・偏見でゆがんだ考えを持たないようにするという姿勢について勉強した。要点は、自分で深く分析し考えること、他の人の意見をよく聞き理解すること、のふたつであった。(逆に、理解しないで鵜呑みにするのは、最も良くない)

それを生かしながら、二学期は、世界の様々な状況について学ぶ。最初は、2001年にe-mailで話題になった「世界がもし100人の村だったら」を使って、以下のような手順で進める。

<手順>

- (1) 様々な事柄の人口比を、各自で推測してみる。(プリント part1, part 2 を参照)
- (2) みんなの推測を言う。どのくらいばらつきがあるかを知る。ひととおり聞いたところで、その平均を出す。この数字は、日本の人の考えるところの平均ということができるだろう。
- (3) 元の文章を紹介し、実際の数字を確かめる。項目によっては、推測値と大きく違っているだろう。特に差が大きかったものには、注目。
- (4) ひとつひとつの項目について、それがどういう意味を持ち、どんな重要性があるかを考える。
- (5) どの項目について、より詳しく知ることが必要になるかを相談する。その結果選ばれたものを、次回以降の授業で重視して大きく扱う。つまり、二学期の大きな方向を生徒の意志を取り入れて決めるという意味である。

17種類の項目を、数回に分けて、考えていく。

本の中で挙げられている1～16までの項目について、それぞれに設問を用意する。:

第十二・十三回 Part 1 (1-7) 9月5日・12日

(配布プリント)

「世界がもし100人の村だったら」より

Part 1

世界には63億人の
人がいますが
もしそれを
100人の村に縮めると
どうなるでしょう。

<1>

推測値

皆の考えの平均値

100人のうち

() 人が女性です () ()

() 人が男性です () ()

<2>

() 人が子どもで () ()

() 人が大人です () ()

そのうち () 人が
お年寄りです () ()

<3>

() 人が異性愛者で () ()

() 人が同性愛者です () ()

<4>

() 人が有色人種で () ()

() 人が白人です () ()

<5>

() 人がアジア人です () ()

() 人がアフリカ人 () ()

() 人が南北アメリカ人 () ()

() 人がヨーロッパ人 () ()

あとは南太平洋地域の人です

< 6 >

- () 人がキリスト教 () ()
() 人がイスラム教 () ()
() 人がヒンドゥー教 () ()
() 人が仏教を信じています () ()
() 人は、木や石など、すべての自然に
霊魂があると信じています () ()
() 人は、ほかのさまざまな宗教を
信じているか
あるいはなににも信じていません . . . () ()

< 7 >

- () 人は中国語をしゃべり () ()
() 人は英語を () ()
() 人はヒンディー語とウルドゥー語を () ()
() 人はスペイン語を () ()
() 人はロシア語を () ()
() 人はアラビア語をしゃべります . . () ()

これでようやく、村人の半分です

あとの半分は

ベンガル語、ポルトガル語

インドネシア語、日本語

ドイツ語、フランス語などを

しゃべります

いろいろな人がいる

この村では

あなたとは違う人を

理解すること

相手があるがままに

受け入れること

そしてなにより

そういうことを知ることが

とても大切です

生徒が、人数を予測した数値 Part 1

ふたつに分けている事柄（1～4番）は、片方のみを尋ねた。100からそれを引いた数字がもう一方の数字と考えればよいと思われたためである。

< 1 >	生徒推測の平均値	本の数値
100人のうち		
() 人が女性です	 (51.4)	 (52)
() 人が男性です	 ()	 (48)
< 2 >		
() 人が子どもで	 (31.8)	 (30)
() 人が大人です	 ()	 (70)
そのうち () 人が お年寄りです	 (25.1)	 (7)
< 3 >		
() 人が異性愛者で	 ()	 (90)
() 人が同性愛者です	 (9.5)	 (10)
< 4 >		
() 人が有色人種で	 (70)	 (70)
() 人が白人です	 ()	 (30)
< 5 >		
() 人がアジア人です	 (30.6)	 (61)
() 人がアフリカ人	 (21.2)	 (13)
() 人が南北アメリカ人	 (22.2)	 (13)
() 人がヨーロッパ人	 (26.7)	 (12)
あとは南太平洋地域の人です		
< 6 >		
() 人がキリスト教	 (26.4)	 (33)
() 人がイスラム教	 (19.0)	 (19)
() 人がヒンドゥー教	 (14.8)	 (13)
() 人が仏教を信じています	 (15.4)	 (6)
() 人は、木や石など、すべての自然に 霊魂があると信じています	 (15.4)	 (5)
() 人は、ほかのさまざまな宗教を		

信じているか

あるいはなにも信じていません ・・(8.7) ・・・(24)

< 7 >

- | | | |
|----------------------|-------------|----------|
| () 人は中国語をしゃべり | ・・・・・(17.4) | ・・・(17) |
| () 人は英語を | ・・・・・(18.4) | ・・・(9) |
| () 人はヒンディー語とウルドゥー語を | (7.8) | ・・・(8) |
| () 人はスペイン語を | ・・・・・(6.9) | ・・・(6) |
| () 人はロシア語を | ・・・・・(5.8) | ・・・(6) |
| () 人はアラビア語をしゃべります | ・・(5.4) | ・・・(4) |

「世界には63億人の 人がいますが も
しそれを 100人の村に縮めると どう
なるでしょう。」という本の中の発問をきっ
かけに、ひとつずつ考察していく。

<1>

100人のうち 52人が女性です 48
人が男性です



問い：これは、男女比の問題。女性の方が、
かなり多いことがわかる。自然な出生率において違いがあるのは確かだが、それ以上に差
が開いている。それはなぜだろうか。生徒に、さまざまな意見を考えて出してもらおう。

参考

男女人口比データ (<http://www.hhs.se/personal/suzuki/o-Japanese/po06.html>)

女性1に対する男性の割合

< OECD >

- 1 トルコ 1.02
- 2 韓国 1.01
- 3 アイスランド 1.00
- 4 オーストラリア 0.99
- 4 ニュージーランド 0.99
- 6 カナダ 0.98
- 6 デンマーク 0.98
- 6 アイルランド 0.98
- 6 オランダ 0.98
- 6 ノルウェー 0.98
- 6 スウェーデン 0.98
- 12 ギリシャ 0.97
- 12 ルクセンブルグ 0.97
- 12 メキシコ 0.97
- 12 スイス 0.97
- 12 イギリス 0.97
- 17 ベルギー 0.96
- 17 ドイツ 0.96
- 17 日本 0.96
- 17 スペイン 0.96
- 17 アメリカ合衆国 0.96
- 22 オーストリア 0.95

22 チェコ共和国 0.95
 22 フィンランド 0.95
 22 フランス 0.95
 22 スロバキア 0.95
 27 イタリア 0.94
 27 ポーランド 0.94
 29 ポルトガル 0.92
 30 ハンガリー 0.91

<アジア>

1 ブルネイ 1.10
 2 中国 1.06
 3 台湾 1.05
 4 韓国 1.01
 4 マレーシア 1.01
 6 インドネシア 1.00
 7 香港 0.99
 7 ミャンマー 0.99
 7 フィリピン 0.99
 10 ラオス 0.98
 11 タイ 0.97
 11 ベトナム 0.97
 13 日本 0.96
 13 シンガポール 0.96
 15 カンボジア 0.94

出典：CIA The World Factbook

<2>

30人が子どもで 70人が大人です そのうち7人が お年寄りです

問い：年齢構成比について。

1) 何歳までが、子どもだろうか？ 何歳からが、お年寄りだろうか？

どんなことを基準に境界線を引いているのか、各自で考える。主観的な基準、客観的な理由、さまざま挙げてもらう。

そのあとで、いろいろな文化のなかでは、それぞれの伝統的な成人の基準があることを紹介する。(時間があれば)

2) 年齢別人口構成比のグラフを数種類用意する。どのグラフがどの国のものか、そのような構成比になっているのはどういう理由によるものかを、推測する。歴史、社会、経済、自然、その他いろいろな要因が考えられるだろう。

< 3 >

90人が異性愛者で 10人が同性愛者です

問い：性的傾向について。これは、現在の日本では、気軽にからかいのネタにされているものでもある。それだけに、ある意味、自分自身が偏見をどう持っているかということを取り返すには適切な課題かもしれない。

生徒へのテーマとして、例えば、

都知事・県知事の候補が、何も言わなかったときを得票率50%として、自分が同性愛者だといった場合、選挙の得票率は何%上下すると推測するかを各自で考えてもらおう。それを平均して、とりあえず今の日本の平均像としておく。その次に、同性愛者であることが犯罪となる社会を例にとりあげる。このあたりは、かなり難しい展開になりかねないが、社会的・法的な問題と、好き嫌いとをきっちり分けないといけない、というところを理解してほしい。

< 4 >

70人が有色人種で 30人が白人です

問い：英語では、"colored" と "white" の二種類に分けることが多い。日本では、白色人種、黒色人種、黄色人種の三種類を思い浮かべる人が多いだろう。Negroid, Caucasoid, Mongoloid, の区分である。

生徒に、この区分けの境目は、どう分かれているのかを尋ねる。この問いは、おそらくかなり難しいだろう。明確な境目など、実はなかったのだということに気がつかせたい。元々おおざっぱに分けただけのものであり、血液型の違い程度に過ぎない。それでありながら、日本でも、国籍や人種を理由にあのスポーツ選手はどうかのこうのと言われたりすることがある。また、外国でも、例えばセム族のイエス・キリストは有色人種なのだが、そういうことを頑として認めない人たちが存在する。偏見の生まれる原因は、かなり人工的なものに過ぎない、ということを理解してほしい。

参考

人種という概念について

1 : (<http://www.let.kumamoto-u.ac.jp/cs/cu/000609race.html>)

人種 (race)

科学的に証明することが絶対にできない人間を区分する分類概念。人種は、(1) 科学的にもはや有効とは言えない概念であり、(2) 社会思想的には常に否定的な意味で想起される必要のある用語である。この2つの考え方に即して説明する。

科学的に有効とはいえない概念としての「人種」

人間の生物学上の類別的概念としては、ブルーメンバッハ（1795）が主張した「→人種の最初の分類の中にすでに人種間の優劣についての言及がある」。これ以降、「人種は生物学的概念であり、民族は文化的概念である」という誤った考え方が定着していった。

人種が生物学的区分であると考えられた理由は、(a) 人種を生物学的な形質から大まかに区分することができるという仮説にもとづいていたり、(b) 人間の「自然な集団」というものがあると前提とする考えかたからでてきた。前者の仮説 (a) は形質の区分はつねに恣意的であり客観的な線引きは生物学上はできないことで否定された。後者の前提 (b) は、生物種 (species) としても亜種 (subspecies) としても「自然な集団」としての人間を生物学的に区分できないことで否定された。

ユネスコは人種に関する2つの宣言（1950,1951）をおこない、人種概念がそれにもとづく差別（人種差別）に乱用されないような説明をおこなったが、これすらも今日では古典的な人種概念の残滓がみられると自然人類学者の中には批判する者もいる（尾本 1997:103）。

否定的な意味で想起される必要のある用語

人種概念は、つねに人種差別思想とセットになって一世紀半以上も西洋思潮を支配し続けたため、人種概念が科学的に無意味であることを認識しても、人種差別思想はすぐには消滅することはない。おまけに、人種差別思想を廃絶することを目的に運動を展開した人類学者の間には「人種は生物学的区分であり、民族は文化的区分」という前提にもとづいて「人種間の優劣は存在しない」という主張をおこなったために、人種＝生物学的な人間の類別的概念という考え方が長いあいだに定着してしまった（今日でも不勉強な研究者は存在する）。

そのため、人種概念の相対化するために、人種差別思想と分けることのできない人種概念（科学史における人種概念）が、どのように歴史的に社会的に構築されてきたのかという研究が進んできている。もっともこの種の研究は、今日的では科学的に誤った概念の使い方を探し出し、その論理構築の誤りを指摘するという、科学史における勝利者史観とよばれる結論の論点先取的議論になりがちである。人種差別思想という誤ったものがなぜ支配的であったのか、それが恐ろしい力をもちうるだけの「常識」でありつづけたのかという説得力のある主張は、それほど多くは登場していない。

また、人種は混交するゆえに「混交は本当は素晴らしいんだ！」という表面的な異種混交をやみくもに肯定する議論も、人種差別思想における境界を前提にした対抗的思潮という点では論理的には単純な議論である。異種混交肯定の立場から反人種論について議論する際には、なぜそれがつねにマイナー位置しかとり得なかったのかという考察や証明が不可欠である。

人種差別思想とそれがもたらした社会的帰結が、近代の生んだ最も忌まわしいものであるという認識に立つならば、人種概念は否定的な意味でつねに我々が想起する必要のある思潮であることに変わりはない。

2 : (<http://www.asahi-net.or.jp/~dn8k-tkm/japan2-5.html>)

人種・民族構成 「日本には民族問題はないのですか？」

「民族問題」や「人種問題」の存在しない国はほとんどといっていいほどありません。

コソボ、ボスニア、パレスチナ、北アイルランド、バスク、チェチェン、チベット、ウイグル、クルド、東チモール……。世界には深刻で日常的な人種・民族問題が遍在しています。多数派による少数派の差別や弾圧、少数派によるテロははともすると際限なくエスカレートし、ついには大規模な虐殺や内戦がおこってしまうこともあります。

その一方で、多人種・多民族の共生が、文化を豊かにし、経済社会の活力をつくり出すというのも今や常識といっているでしょう。「単一民族国家」を力づくで創出しようとし「民族浄化」という名の大虐殺を推進したボスニアそしてコソボの悲劇は、逆に多民族国家の重要性を証明するとも言えます。

ボスニアやコソボほど悲惨ではないにせよ、日本にも、まぎれもない民族問題があります。「民族」という概念枠にはあてはまらなくても、多数派による少数派への差別や偏見があります。韓国・朝鮮人や台湾・中国人を中心とする在日外国人、アイヌあるいは被差別部落の問題はその典型でしょう。最近では、日本に出稼ぎに来る「ニューカマー」と呼ばれる外国人や日系人に対する差別の問題があります。

マイノリティーの人々やかれらを支援する人々の努力によって、法制度の改善や教育・マスコミにおける啓蒙活動は徐々に進展してきました。その結果、露骨な差別が顕在化することは以前より少なくなってきましたし、人々の意識もずいぶん変わってきたように見受けられます。

しかし、家探しに始まり、就職、結婚、学校などの様々な局面で差別の解消にはまだ道は遠いともいえるでしょう。日本社会に遍在する「平等志向」が、マイノリティーの人々をも包含するようなふところの広いものになれるかどうかは今後重要となるでしょう。日本社会の「平等志向」が「同質性へのこだわり」に転化してしまうと、「同化の強制」や「異質の排除」といった「いじめ」に直結してしまいます。

ついでにいえば日本は「単一民族国家」であるというような幻想は、ほんとうのところ過去も現在もほとんどの日本人はもっていなかったと思います。この幻想は、多民族国家であった「大日本帝国」の滅亡後、ごく数十年の間に形成されたとく新しいフィクションであったともいえるでしょう。

3 : http://www2s.biglobe.ne.jp/~t_tajima/nenpyo-1/se-0-7.htm

人種 race とは、人類を、体格、皮膚の色、毛髪などの遺伝する身体的特徴をもとに、ある意味で統計的な手法により分類した概念である。

現在生きている人類の学名は、「脊椎動物門・哺乳綱・霊長目・ヒト科・ヒト属・サピエンス種・Homo sapiens」で、現在の人類はすべて生物学上の同一の種に属している。したがって、人種とは、同一の種である人類をさらに細かい集団に分類したものである。人類学者の間では「人類を人種に分類する生物学的根拠はない」とする意見が一般的となってきた。

< 5 >

61人がアジア人です 13人がアフリカ人 13人が南北アメリカ人
12人がヨーロッパ人 あとは南太平洋地域の人です

問い：地域と、人口比。白地図を配って、アジアはどこを指すのか、などといった線引きを各自でやってみる。アフリカ・ヨーロッパ・アジアの境目はどこか、などということは、それほど意識しないでなんとなく言葉を使っているものである。

人種という区分け、地域という区分けは、案外いいかげんで境界がはっきりしていないという事実を意識させたい。

一学期の最初に、「・・・人」という区分けのしかたについて考えたことを思い出す。それが、特に普遍性のあるものではなく、人工的でその時代の都合にあわせて作ったという面があり、それでありながら、その区分けを権威あるものと宣伝し、それを根拠に紛争を起こしたり、差別や偏見を生み出したりしている。

一時的・恣意的なものと、そうでないことを整理して理解することは大切である。

* 統計について

教室の雰囲気を見て、統計というものの性質についても、少し触れておいた方がよいと判断されれば、話をしておく。

例えば、人口の調査など、どのくらい正確な数字を把握できるものなのかは、かなりあやしい。以前訪れたバングラデシュでは、稲作地帯で人口移動が少ないにもかかわらず、一回の調査に10年はかかるとのことであった。移動が激しい地域、政情不安定な国々など、調査そのものがおこなわれず、単なる推測値がひとたび何かに使われて発表されると、それが5年、10年と引用され続けていることもある。

さらには、自己申告による事柄はもっと揺れが大きくなる。民族などは、しばしば自分で選べるものである。(両親が別々の集団に属するとされる場合のように) 性的な問題は、更に本人の申し出しだい、調査のしかたしだい、と言える。統計もまた、絶対的なものではないということは知っておいた方がいいだろう。

< 6 >

33人がキリスト教 19人がイスラム教 13人がヒンドゥー教
6人が仏教を信じています
5人は、木や石など、すべての自然に靈魂があると信じています
24人は、ほかのさまざまな宗教を信じているか、あるいはなにも信じていません

問い：世界の紛争地図を見せる。そこで、発問。「宗教は、相容れないものなのだろうか？

どれかひとつが残り、他が減びるまで、争い続けるものなのだろうか？」

国際的なものだけでなく、例えばオウム真理教の事件も、みずからを高く、他を低く見るという上下関係を心の中に作ることが背景にあるという点では、同様である。宗教の悪用といえるだろう。ある程度は宗教問題を理解できることは、国際的な動向を考える際には必要なものである。

<6>の発問 「宗教は相容れられないものなのか？」に対する生徒の考え

- ・それぞれの宗教には、異なった価値観や信じるものの違いがあるので互いに受け入れられるというのは難しいと思う。
- ・ムリ。唯一神を唱えてる宗教とかあるし、信じるものが違う。
- ・受け入れられない。自分の信じている宗教が一番と考えていると思うから。私は、どの宗教もあんまり信じてないし、よくわからないけど、クリスマスもやるし、お正月もやるし、日本は相容れてる？
- ・やっぱそれぞれ信じているものが違うから、簡単には仲良くなれないと思う。
- ・無理だと思う。自分の宗教がぜったい正しいと思っているから、他の宗教を受け入れるのは無理。
- ・宗教によってものの価値や考え方が違うから、相手の考えを受け入れることはむずかしいと思う。考え方がバラバラだと何が良くて正しいのかさだまらず、お互いが理解できないので、宗教的な問題で紛争がおこってしまうと思います。宗教がみな統一していれば、少しは考えのずれがあってもその考えも考えてして受け入れるだろうと思う。

黒板に、生徒が考えた数字の平均を
電卓で計算して、書いていく。
日本の10代が考える平均値とも
考えられるだろう。



<7>

17人は中国語をしゃべり 9人は英語を 8人はヒンディー語とウルドゥー語を
6人はスペイン語を 6人はロシア語を 4人はアラビア語をしゃべります
これでようやく、村人の半分です
あとの半分は ベンガル語、ポルトガル語、インドネシア語、日本語、ドイツ語、
フランス語などをしゃべります

問い：言語について。

1) 国際連合で「公用語」とされている言語は？

- ・アラビア語 ・中国語 ・英語 ・フランス語
- ・ロシア語 ・スペイン語

2) 世界中には、いくつくらいの言語があるだろうか？

約6,500

3) そのうち、文字を持っている言語は、いくつくらいだろうか？

Windows XP では、135の文字に対応している。 (2005年現在)

言語 (http://www.geocities.jp/p451640/moji/etc/hjm_01.html)

◆世界には、3500をこえる言葉があるそうです。そして、それらの言葉の中には、それを書き表すための文字をもっているものがあります。言葉の数からすると、話し言葉だけで文字がない言葉が一番多いのですが、それでも世界には200をこえる種類の文字があるそうです。(この数字には、今は使われなくなった昔の文字も含みます)特に、アジア各地の言葉の多くが、独自の文字をもっています。

◆世界の文字は、それぞれに特徴のあるいろいろな形をしていますが、その仕組みや書き方もいろいろです。日本語の文字は、たて書きにも横書きにもしますが、世界の中には、英語のアルファベットのように横書きにしかしないものもあれば、モンゴル文字のようにたて書きにしかしないものもあります。また、同じ横書きといっても、アルファベットのように左から右に書くものだけでなく、アラビア文字やヘブライ文字のように逆に右から左へ書くものもあります。

◆また、今、世界で使われている文字のほとんどは、日本語のカナのように、文字そのものには意味がなく音だけを表す表音文字ですが(ほとんど唯一、日本語や中国語の漢字だけが、文字一字一字が意味も表す表意文字です。)、その表音文字の中では、ローマ字のように母音(a i u e o)と子音(k s t n hなど)を組み合わせるという仕組みのものが多くて、カナのように母音と子音の組み合わせをすべて一文字にしたものは、めずらしいようです。中には、インドのデーバナーガリー文字のように、ローマ字とカナの中間のような仕組みの文字もあります。

◆こうして、いくつかの文字を見ただけでも、世界は本当にいろいろなんだということを感じます。本当は世界中を旅行して、世界中の人と話をしたり、遊んだりできると楽しいのですが、なかなかそうもいきません。でも、世界の文字で遊んでみれば、ちょっとした世界旅行気分になれるかもしれません。そこで、これから世界各地の特徴ある代表的な文字をいくつか選んで、遊んでみることにしましょう。

いろいろな人がいる この村では あなたとは違う人を 理解すること
相手があるがままに 受け入れること
そしてなにより そういうことを知ることが とても大切です

(配布プリント)

2002年9月5日

<1> 差の理由を推測しよう。

自分の推測：

他の人の意見：

<2>

1) 自分の考えでは、() 歳までが子ども (理由)

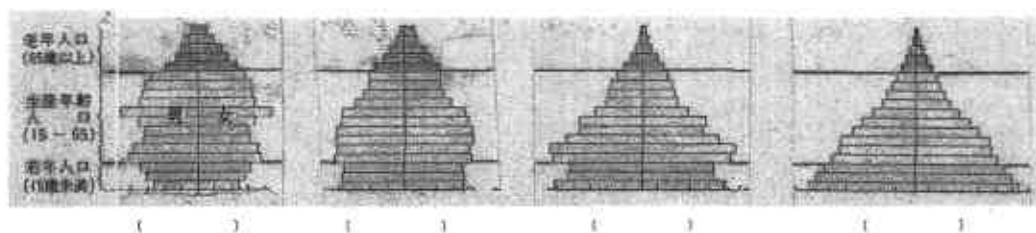
() 歳からがお年寄り (理由)

2)

－ 4カ国の年齢別人口構成 －

このグラフは、ブラジル、中国、日本、オーストラリアの4カ国の人口構成です。

どのグラフが、どの国のものでしょうか。()の中に、国名を書きましょう。



<それぞれのグラフの特徴>

< 3 >

自分の推測：

50% → () %くらいに変わる

そう考える根拠：

< 4 >

境界線は、どういうことを基準に決めているのだろうか？

自分の考え・

・
・

他の意見

基準についての、意見

< 5 > アジア・オセアニア・ヨーロッパ・アフリカ・北アメリカ・南アメリカ、それぞれの境目に、線を引いてみよう。



< 6 >

課題：

自分の考え、理由

他の意見、理由

< 7 >

1) (言語名を挙げよう)

2) 自分の推測値 _____ . . . ()

3) 自分の推測値 _____ . . . ()

() 月 () 日

<今日のふりかえり>

1. <1>～<7>のテーマのうちでもっと詳しくやるとすれば、どれを希望しますか。

ひとつ以上、理由をつけて、書きましょう。

2. 今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

3. 自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 良かったところ、悪かったところは、どういうところでしたか。 自己分析・評価しましょう。

自己採点：____点（10点満点で）

理由：

4. 今回の授業の、テーマ選び・展開のしかたなどで、問題点があるとすれば、どういふところでしょうか。 分析・評価しましょう。

授業採点：____点（10点満点で）

理由：

第十二回 (9月5日)

1. 今日ののテーマのうちでもっと詳しくやるとすれば、どれを希望しますか。
ひとつ以上、理由をつけて、書きましょう。 <1>~<7>

- ・ 6) 心境により考え方が大きく異なってくるから。
- ・ 3) 興味があるってワケじゃないけど、簡単に理解できるものじゃないから、理解できるならしたい。
- ・ 7) なんで世界に人々は別の言葉を話すようになったのか?が気になるから。
- ・ 5) どこからどこまでがアジア人なのか、ヨーロッパ人なのか、それぞれどのような違いがあるのかを詳しく知りたいと思いました。
- ・ 1) 4) 興味があったから。
- ・ ふつうに好きな本よんだりしたい。

2. 今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

- ・ 平均寿命が30代の国もあるなんて、日本がどれだけぜいたくしているかをあらためて知った。有色人種などはたぶん欧米人(白)などが差別をするためにつけたのだと思う。あくまで推測だが。
- ・ 世界を100人で考えるとわかりやすいし、世界が身近に見れている感じがした。
- ・ 白人と有色人種の違いは顔を見ればわかることだけど説明するには境界線があまりないからむずかしい。白い人と書いて白人だけど色の黒い人もいる。やっぱり顔立ちでしょうか。白人なら目のほりが深く鼻が高い。
- ・ 「100人の村だったら」で、世界の状態がなんとなくで、分かった。ただ、ほんとにその数値で当たっているのかが微妙だと思った。簡単に調べられるものじゃないと思うから。
- ・ 日本史が知らないし、こんなことを考えてみたりしたことがないからむずかしかった。有色人種と白人との区別は考えて手もあんまり見つからなくて、この数字は何で表しているんだろうと思った。
- ・ 「人種というものに科学的な境目がない」のに人間はムダに他の人を傷つけたりしているということ。
- ・ 自分の考えが回りと違ってることが多くてビックリした。人それぞれのものの考えの違いがあるということに印象が残りました。
- ・ 「世界がもし100人の村だったら」で自分が推測したものと大きく違うものがあったので驚いた。
- ・ 世界にはいろんな人がいるんだなあと思った。

3. 自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 良かったところ、悪かったところは、どういうところでしたか。 自己分析・評価しましょう。

自己採点：____点（10点満点で）

理由：

- ・（10）自分の考えをはっきり言ったと思う。これは僕の長所でもあると思うのでこれからがんばろう。
- ・（10）すべて聞いていたから。
- ・（8）なぜ女性の方が多いのかと言われてもよくわかりませんでした。（人口）お年寄りといっても貧しい国では37歳くらいで一生を終えてしまう人がいるとは知りませんでした。
- ・（8）少し眠かった。だけど、数字を考えるときはいっぱい頭使ってた。
- ・（3）全然わかんなくて、だいたいがこんきょのない考えで予想したから。
- ・（7）ちょっと眠ってしまいましたので・・・
- ・（9）自分の意見のwをはっきり言うことができました。とても楽しかったです。
- ・（7）授業に参加できた。意見が言えた。
- ・（8）できた。でもちょっとねちゃった。

4. 今回の授業の、テーマ選び・展開のしかたなどで、問題点があるとすれば、どういうところでしょうか。 分析・評価しましょう。

授業採点：____点（10点満点で）

理由：

- ・（7）よかったけど最後までできなかったという点は・・・ もう少し時間にゆとりのあるようにしてほしい。
- ・（8）国のことならちゃんと国名を言ってほしいと思った。
- ・人口が減りつつある日本だけど、その一方で爆発的に人口が増えている。このままでは地球はどうなってしまうのでしょうか。
- ・（8）本がおもしろいから。
- ・（8）みんなで、意見を出し合うのは楽しいです。
- ・（9）もう少し考える時間が欲しいと思いました。
- ・（8）世界を100人という単位で見ると面白かった。

1. 今日ののテーマのうちでもっと詳しくやるとすれば、どれを希望しますか。

ひとつ以上、理由をつけて、書きましょう。

- ・食糧の問題。
- ・6) 宗教の問題はとても難しいと思ったので、もう少し詳しく紛争などの話を聞きたかったです。
- ・6) 宗教の違いとかをもっとやりたと思いました。
- ・栄養が充分でないこと。
- ・言葉について。理解するには話すことがいいから。
- ・6) 宗教問題はこれからも重要だから。

2. 今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

- ・栄養が十分じゃない人がいっぱいいて、日本はすごくめぐまれてるんだと思った。
- ・地域、宗教などの区別について。
- ・日本人の考えが、まだ世界に向いていないと思いました。もう少し世界の状況とかを見ればいいと考えられました。
- ・世界の状況を知って、日本は平和な国なんだなと思いました。
- ・私は宗教とかあんまり信じてないけど、日本では、クリスマスもあるし、お正月もあるし、両方を楽しんでる気がする。言葉はこんなにたくさんあって、文字はこんなに少ないと言うことを知って驚いた。
- ・私は必ず話をするには一つ一つの言葉、言語があるのだから、文字も当然あるものだと思っていた。6500の言葉に対して文字があるのが28しかない。日本にいるとあたりまえのことがあたりまえじゃない。勉強できない国もあるし。
- ・英語をしゃべる人がけっこう少ないこと。
- ・言語の多さにびっくりした。食不足の人は意外と少なかったが、食料は十分にあるのでなんとかしなきゃいけない。

3. 自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか？ 良かったところ、悪かったところは、どういうところでしたか。 自己分析・評価しましょう。

自己採点：___点（10点満点で）

理由：

- ・(7) つかれてたからちゃんとやってない。
- ・(8) 意見が言えた。
- ・(9) 自分の考えをしっかりと持つことができました。
- ・(8) 眠かったです・・・
- ・(5)

・(9) 宗教問題について。宗教という部に所属していると考えも統一されてしまう。それが人間との間をもっと複雑にしているかもしれない。

・(10) よく考えたと思う。

・(9) 眠さに耐えてがんばった。

4. 今回の授業の、テーマ選び・展開のしかたなどで、問題点があるとすれば、どういふところでしょうか。 分析・評価しましょう。

授業採点： ____点 (10点満点で)

理由：

・(9) 様々な問題について考えることができた。自分の予想とは全然違う数字がでてきて驚いた。

・(10) 少し難しかったけど勉強になりました。

・(8) とても興味深く、いいと思います。

・(9)

・(9) わけがわからないことをこたえさせようとする。

・(9) 問題はないが使うプリントが多くてゴチャゴチャしてた。

第十四・十五回 Part 2 9月19日・10月10日

(配布プリント)

Part 2

また、こんなふうにも 考えてみてください

<8>

村に住む人びとの100人のうち

() 人は栄養がじゅうぶんではなく.....()

() 人は死にそうなほどです.....()

でも() 人は太りすぎです.....()

<9>

すべての富のうち

() 人が59%をもっていて.....()

みんなアメリカ合衆国の人です

() 人が39%を.....()

() 人が、たったの2%を.....()

分けあっています

<10>

すべてのエネルギーのうち

() 人が80%を使い.....()

() 人が20%を分けあっています.....()

<11>

() 人は食べ物の蓄えがあり.....()

雨露をしのぐところがあります

でも、あとの() 人は.....()

そうではありません

() 人は、きれいで安全な水を.....()

飲みません

<12>

銀行に預金があり

財布にお金があり

家のどこかに小銭が転がっている人は

一番豊かな() 人のうちの1人です.....()

< 1 3 >

自分の車を

もっている人は

() 人のうち

.....()

1 人です

< 1 4 >

村人のうち

() 人が大学の教育を受け

.....()

() 人がコンピューターを

.....()

もっています

けれど、

() 人は文字が読めません

.....()

< 1 5 >

もしもあなたが

いやがらせや逮捕や拷問や死を恐れずに

信仰や信条、良心に従って

なにかをし、ものが言えるなら

そうではない () 人より恵まれています.....()

< 1 6 >

もしもあなたが

空爆や襲撃や地雷による殺戮や

武装集団のレイプや拉致に

おびえていなければ

そうではない () 人より

.....()

恵まれています

一年の間に、村では

1 人が亡くなります

でも、1 年に 2 人

赤ちゃんが生まれるので

来年、村人は

1 0 1 人になります

もしもこのメールを読めたなら、
この瞬間、あなたの幸せは
2倍にも3倍にもなります
なぜならあなたは
あなたのことを思って
これを送った
誰かがいるだけでなく
文字も読めるからです

けれどもなにより
あなたは
生きているからです

昔の人は言いました
巡り往くもの、
また巡り還る、と

だからあなたは、
深ぶかと歌ってください
のびやかに踊ってください
心をこめて生きてください
たとえあなたが、傷ついていても
傷ついたことなどないかのように
愛してください

まずあなたが
愛してください
あなた自身と、人が
この村に生きてある
ということを

もしもたくさんのわたし・たちが
この村を愛することを知ったなら
まだ間にあいます
人びとを引き裂いている非道な力から
この村を救えます
きっと

生徒が、人数を予測した数値 Part 2

< 9 > < 1 0 > の空欄は、他を聞いたので 1 0 0 からそれを引けば数字が現れると考えられるため。

< 8 >	生徒推測の平均値	本の数値
村に住む人びとの 1 0 0 人のうち		
() 人は栄養がじゅうぶんではなく	 (55.5)	... (20)
() 人は死にそうなほどです	 (20.1)	... (1)
でも () 人は太りすぎです	 (17.6)	... (15)
< 9 >		
すべての富のうち		
() 人が 5 9 % をもっていて	 (18)	... (6)
みんなアメリカ合衆国の人です		
() 人が 3 9 % を	 ()	... (74)
() 人が、たったの 2 % を	 (39)	... (20)
分けあっています		
< 1 0 >		
すべてのエネルギーのうち		
() 人が 8 0 % を使い	 (43)	... (20)
() 人が 2 0 % を分けあっています	 ()	... (80)
< 1 1 >		
() 人は食べ物の蓄えがあり	 (35)	... (75)
雨露をしのぐところがあります		
でも、あとの () 人は	 (65)	... (25)
そうではありません		
() 人は、きれいで安全な水を	 (34)	... (17)
飲めません		
< 1 2 >		
銀行に預金があり		
財布にお金があり		
家のどこかに小銭が転がっている人は		
一番豊かな () 人のうちの 1 人です	 (19)	... (8)
< 1 3 >		

自分の車を

もっている人は

() 人のうち (13.5) . . . (7)

1人です

< 1 4 >

村人のうち

() 人が大学の教育を受け (13) . . . (1)

() 人がコンピューターを (11) . . . (2)

もっています

けれど、

() 人は文字が読めません (29) . . . (14)

< 1 5 >

もしもあなたが

いやがらせや逮捕や拷問や死を恐れずに

信仰や信条、良心に従って

なにかをし、ものが言えるなら

そうではない () 人より恵まれています (51) . . . (48)

< 1 6 >

もしもあなたが

空爆や襲撃や地雷による殺戮や

武装集団のレイプや拉致に

おびえていなければ

そうではない () 人より (32) (20)

恵まれています

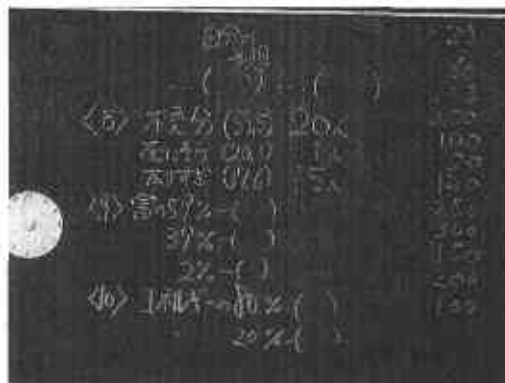
< 8 >

村に住む人びとの100人のうち 20人は栄養がじゅうぶんではなく
1人は死にそうなほどです でも15人は太りすぎです

問い：食料問題、特に不均衡について

1) 世界の食糧生産は、不足しているのでしょうか? ... No

つまり、100人の村には、100人ぶんの食料はあるのか、ないのか、ということ。無いのであれば、解決すべき問題は、食料生産を増やすことに他ならない。しかし、現実には、あるのに行き渡っていないことなので、どう分けあうかが重要なテーマであることに意識を向ける。



2) 栄養不足のほとんどは、女性と子どもです。なぜだと思いますか?

まずは、なぜ女性と子どもが栄養不足になってしまうのかについて、考えてみる。この解答はひとつではないし、地域や社会状況で異なる。生徒が、いろいろな理由を推測してみることで自体が目的。

3) 飢えで命を落とす子どもの数は、どのくらいの時間にひとりの割合でしょうか? ...
・ 7秒にひとり

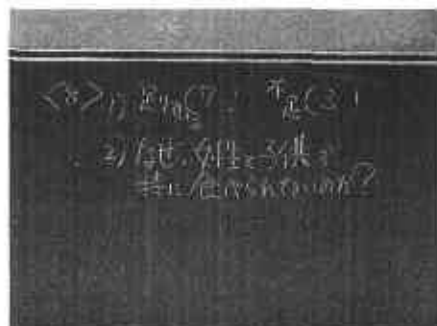
最初に数字の予測をさせてから、答えを発表。次に、どのくらいの時間でひとりが亡くなるのかを、生徒が見ている前で、計算する。

1年 = 365日 × 24時間 × 60分 × 60秒 = 31,536,000秒

31,536,000秒 ÷ 7 = 4,505,142人

単に大きな数字をいわれて終わりにするよりも、目の前で計算していくと、その数字の大きさが実感できるだろう。各自が実感できる7秒という時間で、ひとりが飢えで亡くなっていることを感じ取ってほしい。

ここでは、WFP (World Food Programme 国連世界食糧計画) が作成した「ハンガー・マップ」を使用した。



< 9 >

すべての富のうち 6人が59%をもっていて みんなアメリカ合衆国の人です

74人が39%を 20人が、たったの2%を 分けあっています

問い：前の食料配分に続く、富の配分について。

時計の文字盤を見ながら、円グラフにしてみる。20人が暮らす2%とは、時計でいえば1分12秒ぶんにあたる。

ここで、「自分がこの貧しい20人のうちのひとりだとします。50%の6人に対して、どんなことを考えるでしょうか？」

アメリカ合衆国は、世界最大の援助国でもある。それでいながら、いろいろな非難の対象になっている。その理由の一端が、この数字に表れているといえるだろう。

では、なぜ、アメリカ合衆国が巨大になっていったのか。さまざまな理由付けはできるが、一般的には、長い間自国内が戦場にならなかったからということには欠かせない。その目で貧困地域を見ると、それは紛争地域とかなり重なっていることに気づく。

<10>

すべてのエネルギーのうち 20人が80%を使い
80人が20%を分けあっています

問い：

「エネルギー資源といって、思い出すものは何ですか？」

石油、石炭、天然ガス、水力、原子力、風力、太陽光発電 など。

それぞれの比率を、黒板に書く。

どんなものを使っているかということと別に、使いすぎの問題も重要。

「世の中で、大規模な無駄遣いと思われるものを、挙げてみましょう？」

これも、ひとつの正解がある問題ではない。いろいろ出ると興味深いだろう。

自分個人としては、軍事予算が含まれるといたいところ。

<11>

75人は食べ物の蓄えがあり 雨露をしのぐところがあります

でも、あとの25人は そうではありません

17人は、きれいで安全な水を 飲めません

問い：保険・衛生問題。

「雨露をしのぐところがないと、どんな問題が出てくるのでしょうか？」

食料など蓄えることはできない。水に濡れる状況は、衛生状態の悪さでもある。病気の問題は、すぐに発生する。

きれいで安全な水が手に入らないとは、どういうことだろうかを考えると、昔からそうだった場合と、近年になって汚染でそうってしまった場合とがあることに気づく。そこで、ふたつの質問を考えてみる。

「水が汚れていると困ることをなるべく多く考え出しましょう。

「水が足りないと困ることをなるべく多く考え出しましょう。

生死に直結することとして、下痢の問題がある。日本などではちょっと理解しにくいの

だが、乳幼児の死因で最大のものが、下痢による脱水である。下痢対策に、経口保水液の作り方と、それを普及させる教育のふたつのことに言及しておきたい。



< 1 2 >

銀行に預金があり 財布にお金があり 家のどこかに小銭が転がっている人は 一番豊かな8人のうちの1人です

< 1 3 >

自分の車を もっている人は 7人のうち 1人です

問い：< 1 2 >は個人貯蓄。< 1 3 >は所有物。どちらも、財産。

貯蓄、つまり使う予定のないお金がある人は、100人のなかで8人しかいない。生徒に、「貯金している人は？」

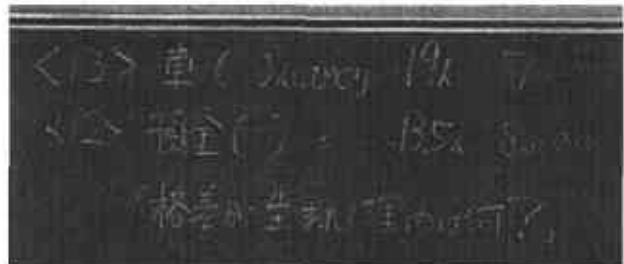
と尋ねてみる。しているならば、お金持ちの8人にはいつている。

貯めておかないと買えないものは、身の回りにたくさんある。つまり、それらを持っている人は、100人に8人くらいだということになるだろう。

「自分の家に、車がある人は？」と尋ねる。ある、と答える人が多いだろう。

「日本では、車を持っているのが、特別めずらしくはありません。でも、< 9 >を見てください。2%を分けあっている20人には、車を持つことは難しいでしょう。このような、所得・財産の格差が生まれるのは、なぜでしょうか？」

これも、ひとつの答えではない問題。たくさん考えが出てほしい。



< 1 4 >

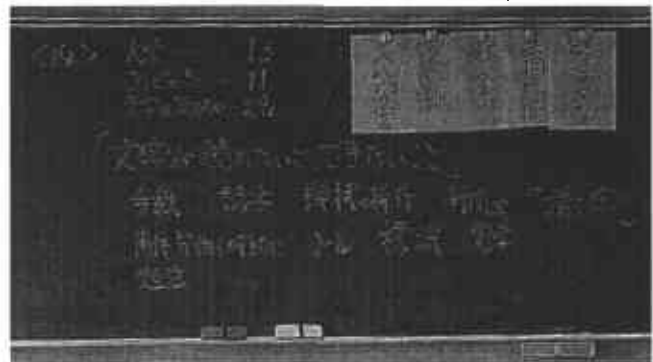
村人のうち 1人が大学の教育を受け 2人がコンピューターを もっていますけれど、14人は文字が読めません

問い：教育。

前の項目で、貧富の差について触れた。お金があると、教育を受けることができ職業で有利になり、多くの情報を手に入れることもできる。お金がないと、教育を受ける機会が減り、ますます不利になる。つまり、

放っておくと、格差は拡大してしまう。これをそのままにしておくか、それとも不公平として是正しようとするか、それが我々に問われている。

教育が受けられないときの具体例として、識字が挙げられているのに基づいて、「もし、



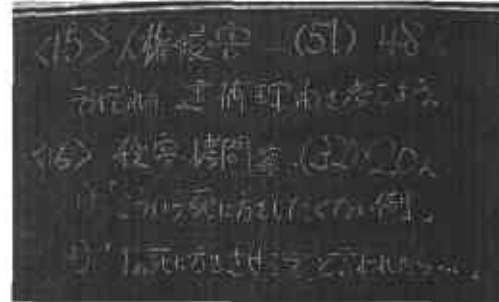
自分に文字が読めなかったら、できないことを挙げましょう。」と問いかける。自分の日常では当たり前と思っていたことが、いろいろできないことに気づいてほしい。

<15>

もしもあなたが いやがらせや逮捕や拷問や死を恐れずに 信仰や信条、良心に従って
なにかをし、ものが言えるなら そうではない48人より恵まれています

問い：人権。

48人は、何かをしたりしゃべったりすると、
逮捕・拷問・死につながるということ。何をすると逮捕されるのかについての、具体的な例がないと、生徒には想像ができてにくいと思われる。



1)「以下の文は、いずれも逮捕された例です。どういう理由で逮捕したのか考えましょう。」

- (1) 丘の上から、港の絵を描いていた。
- (2) 手持ちのノートパソコンから、ファックスを送った。
- (3) 友達が6人集まって、自分のうちで夕食を一緒に食べた。
- (4) ある子どものお父さんが、外国へ行った。(逮捕されたのは、子ども)
- (5) 飲み屋で、友達と「自由に乾杯！」と言ってビールを飲んだ。
- (6) 家に帰るのが、夜7時を過ぎた。
- (7) 飛行機から、外の景色を写真に撮った。

全員が全部を考えると負担がかかりすぎるので、ふたりでひとつずつ、分担する。どれも、生徒が「なんなんだ、これは？」と目を白黒させるはず。

もちろん、これらは極端な例だが、ひどくなればここまで有り得るということのも知ること
で、ここまではひどくないにしても、「いつ、何で逮捕されるか、わからない」という怖い
思いにびくびくしながら暮らしている人たちが100人のうち48人いる現状について、
考える。

2)「上記の(1)～(7)のような、倫理・道徳的に悪いと言えないことで、逮捕するのは、逮捕する側はどういう効果をねらっているのでしょうか？」

今の高校生に、“不条理”という言葉はあまり通じないかもしれない。どのような言葉を使うにしろ、人としての善悪とは別のところで決められてしまうのは、えもいわれぬ恐怖であるだろう。一時間後の自分がどうなっているかわからないのだから。

< 16 >

もしもあなたが 空爆や襲撃や地雷による殺戮や 武装集団のレイプや拉致におびえていなければ そうではない20人より 恵まれています

問い：平和。

人権侵害の典型が、“理不尽な死”であろう。

問い：

1)「自分はこういう死に方をしたくない、という例を考えましょう。」

ひとつとおり聞いてから、次の問いへ。

2)「その死に方をさせるぞと威されたら、以下の事柄を、あなたは我慢しますか？」

- (1) お金を全部持っていかれる。
- (2) 砂漠の真ん中に置いていかれる。
- (3) 仕事を失う。
- (4) 町の真ん中に裸で放り出される。
- (5) 家を燃やされる。
- (6) 自分の子どもを連れていかれる。

人権侵害というのは、ひとりだけにおこなうことでも、自分にも同じことがあるかもしれないと感じさせる効果がある。つまり、実際の被害者が少数に見えても、恐怖の中で暮らす人々はたいへんに多いのだということを理解してもらう。

< 17 >

一年の間に、村では 1人が亡くなります

でも、1年に2人 赤ちゃんが生まれるので 来年、村人は 101人になります

問い：人口。

(配布プリント)

< 8 >

1) 不足しているか・・・ Yes / No

2) 自分の考え

他の意見

3) () にひとり

< 9 >

自分の考えそうなこと：

他の意見で自分には興味深かったもの：

< 10 >

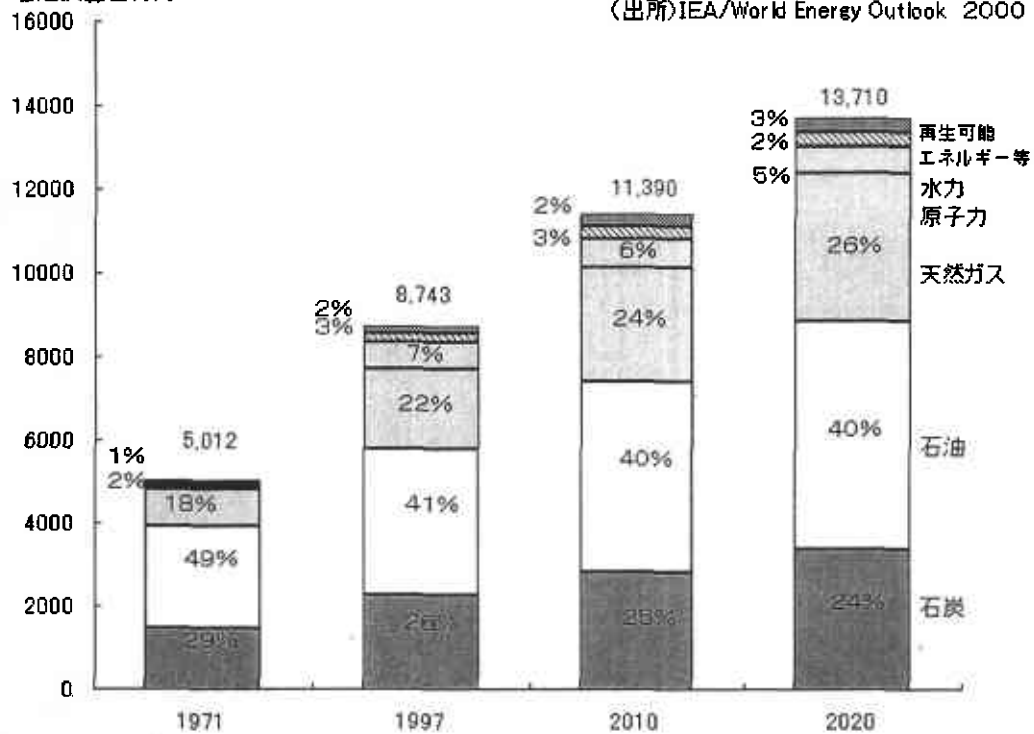
1) 資源：

2) 自分の考え

他の意見

石油換算百万トン

(出所)IEA/World Energy Outlook 2000



< 1 1 >

1) 発生する問題

自分の考え:

他の意見:

2) 汚れていると・・・

3) 足りないと・・・

< 1 2 > ・ < 1 3 >

原因

自分の考え

他の意見

< 1 4 >

できないこと

自分の考え

他の意見

< 15 >

1) 「以下は、いずれも、逮捕された例です。何が悪いとされたのか考えましょう。」

- (1) 丘の上から、港の絵を描いていた。
- (2) 手持ちのノートパソコンから、ファックスを送った。
- (3) 友達が6人集まって、自分のうちで夕食を一緒に食べた。
- (4) ある子どものお父さんが、外国へ行った。(逮捕されたのは、子ども)
- (5) 飲み屋で、友達と「自由に乾杯！」と言ってビールを飲んだ。
- (6) 家に帰るのが、夜7時を過ぎた。
- (7) 飛行機から、外の景色を写真に撮った。

2) 「上記の(1)～(7)のような、倫理・道徳的に悪いと言えないことで、逮捕するのは、逮捕する側はどういう効果をねらっているのでしょうか？」

< 16 >

1) 「自分はこういう死に方をしたくない、という例を考えましょう。」

2) 「その死に方をさせるぞと威されたら、以下の事柄を、あなたは我慢しますか？」

- (1) お金を全部持っていかれる。 (我慢 する / しない)
- (2) 砂漠の真ん中に置いていかれる。 (我慢 する / しない)
- (3) 仕事を失う。 (我慢 する / しない)
- (4) 町の真ん中に裸で放り出される。 (我慢 する / しない)
- (5) 家を燃やされる。 (我慢 する / しない)
- (6) 自分の子どもを連れていかれる。 (我慢 する / しない)

<生徒のコメント>

第十四回 (9月19日)

<今日のふりかえり>

1. 今日ののテーマのうちでもっと詳しくやるとすれば、どれを希望しますか。
ひとつ以上、理由をつけて、書きましょう。

- ・ 飢えで子供が7秒に1人死んでること。世界的には食糧不足ではないのに、なんでこれだけの差があるのか。
- ・ 14) 日本ではふつうにできるコトが世界ではできないみたいだから。日本の豊かさを知るためにも・・・
- ・ 世界の無駄遣いについて。現実を知ることが一番必要だから。
- ・ 9) なんで、59%も持っている人は、2%の人に分けないのか。どうしてこんなに差がでるのか知りたいから。
- ・ 11) いつも自分達のくらしで比較してしまうので、回りの国が今、どんな状態なのかを少し詳しくやりたいです。
- ・ 富の格差の問題。どうしてそうなるのか具体的に知りたいと思ったから。

2. 今日の授業で、印象に残ったことや深く考えたことを書きましょう。

- ・ 水が汚れているだけで、グリになるだけで子供が死ぬなんてびっくりした。世界で考えていかなければならない問題だと思う。
- ・ 今日の授業全体を通して考えると、自分は恵まれているんだなあと思いました。
- ・ 言葉の数がすごく多いのに文字にするとすごく少ないのがびっくりした。
- ・ 水を私たちはいつもきれいなものを口にしてるけど、それがあたりまえにできない所もいくらだってある。公園など公共でお金も払わないで飲めるのは日本ぐらい(税金でつくったものだけと)。
- ・ 日本では預金をしていて車を持っている、というのは別に特別なことではないけど、世界を見ると、私達は8人に1人が集まっているということにびっくりした。
- ・ 7秒で1人の子供が飢えによって死んでいることにビックリしました。病気や老人を足すともっと大勢の人が次々になくなっていくのかな?と深く考えてしまいます。
- ・ 世界では、様々な物に大小の格差がついてしまうこと。

3. 自分が、能動的に参加して考えることができたでしょうか? 良かったところ、悪かったところは、どういうところでしたか。 自己分析・評価しましょう。

自己採点: ____点 (10点満点で)

理由:

・(10) 今日は少し難しい質問もあったが、自分ならではの答えを発表することができた。

・(5) 途中から授業に参加したから。

・(6) 眠かった。でも、考えてた。

・(9) 7秒に1人が死んでいるという実態を知って本当にびっくりしました。増えて減ってとめまぐるしく変わる。今日まで。環境のことを考えるといろいろ大変だと思いました。

・(8) 自分の意見が少しだけ言えました。

・(7) 意見が言えた。

4. 今回の授業の、テーマ選び・展開のしかたなどで、問題点があるとすれば、どういふところでしょうか。 分析・評価しましょう。

授業採点： ____点（10点満点で）

理由：

・(9) 時間が中途

・(8) 特に問題はないと思う。

・(8) 本を使うのは良いと思う！

・(9)

・(10) もっともっと考えていきたいことばかりです。

・(9)